

安定輸送対策について

平成19年2月15日

昨年の11月27日(月)に、武蔵野線新秋津駅構内において発生した機関車不具合をはじめとする複数の輸送障害の影響により、約1週間にわたり輸送が大幅に混乱し、お客様に多大なご迷惑をおかけしました。

今回の輸送障害の反省を踏まえ、首都圏における輸送障害発生時の危機管理として、下記の安定輸送対策を実施します。

1. ただちに実施する対策

(1)組織の強化

情報の一元管理と迅速な対応を行うため、「異常時業務支援グループ」を設置しました。(2月1日実施)

(2)情報連絡の強化

24時間リアルタイムにお客様と双方向連絡ができる体制を整備します。

利用運送事業者に対し、IT-FRENSのメニュー画面に運休計画の情報提供を開始しました。(1月28日実施)

(3)列車運行の早期回復

列車の運休判断を明確化して、正常ダイヤへの早期復帰のための手配を迅速に行います。

ダイヤの乱れが他の線区に拡大することを防止するため、特定線区において弾力的な乗務員・機関車運用を行ないます。

拠点駅においてコンテナが輻輳した場合、IT-FRENSの自動枠調整機能を一時停止し、マニュアルによる調整を行ないます。

(4)その他

旅客会社との連携を強化します。

フィーダー区間代行等により、東京郊外駅においても一定の輸送力を確保する仕組みなどを利用運送事業者と協調して検討します。

2. 今後の対策

(1)貨物の所在情報をより正確に早くお伝えするために、現在開発中の運転支援システム(機関車に搭載するナビゲーションシステム)に、リアルタイムで列車位置、機関車、運転士の所在確認ができる機能を追加します。

(2)利用運送事業者と連携し、代行輸送力増強のための新たな輸送システムの構築を検討します。

(3)列車の折返し遅延の防止策として、輸送機材、要員及び設備の増強等を行います。